

【軽作業】



【銅線作業】



発行：富士山ドリームビレッジ

(障がい者就労継続支援A型・就労移行支援事業所)
〒418-0011 富士宮市粟倉 2479-1

★ 粟倉南事務所

〒418-0018 富士宮市粟倉南町 147-1
TEL：0544-25-1808 FAX：0544-66-6052

★ カジュアルレストラン 「ラビットムーン」

〒435-0052 浜松市東区天王町字諏訪 1981-3
浜松イオン市野ショッピングセンター
TEL/FAX：053-467-2125



★印が粟倉南事務所です。粟倉団地交差点を左折。約100m。ポテト、HACから50mほど。スーパー「まんぞくや」さん跡地。登山道から来ると平成大橋をこえて150mほど。

障害者の就労を応援します

ビレッジ通信 vol.14



発行：富士山ドリームビレッジ
(障がい者就労継続支援A型・就労移行支援事業所)

一年を振り返って 2009

古民家の粟倉事業所の仕事大半を粟倉南事業所に移転し、株式会社エンチョー様の軽作業、農園受託作業量を拡大いたしました。その結果この大不況にもかかわらず仕事が途切れることなく作業でき、周辺の福祉施設にも仕事を提供することが出来たことは良かったと思います。

富士エコサイクル様から受託している銅線リサイクル事業は、会社が浜松市に移転のため富士宮市での受託は不可能になり、富士山ドリームビレッジが新規に浜松での作業を行えるよう現在調整しています。

一般企業就職は、来春予定者を含め7名の利用者が就労し、業種別としては、販売業・清掃業・サービス業が中心になります(就労継続A型の新規雇用者は12名)。

また、春から複数の会社経営者と障がい者就労問題を協議しながら、食品製造・託児・飲食・葬祭関連事業で障がい者が就労参加出来る様なモデルを創造しています。特に託児関連事業では、平成23年建物完成を目標としています。

来年は新卒を含め職員を数名採用し、心新たな体制で一人でも多く社会参加できるように努力していきます。

富士山ドリームビレッジ 代表取締役社長 林博道

【一般企業就職の様子】



今年も灯油販売、やっています

今年でジャンボエンチョー富士宮店様の灯油販売を請負わせていただき、3年目になりました。今までに多くの方が実習をさせていただき、その中で数名の方がジャンボエンチョー様に認められ、富士宮店をはじめ富士店、清水店様などへの就職、および内定を頂いております。

寒い時期での屋外仕事ですが、メンバー全員、とてもがんばって取り組んでいます。

年末年始もジャンボエンチョー様の営業日には仕事をしていますので、富士宮店さんにお越しの際には、是非お声を掛けてください。

【灯油販売の仕事】

お客様からお預かりした伝票に記載されている灯油の量を入れる仕事です。機械仕事と接客の2つの仕事を行います。これから寒い日などは、列が並ぶほど多くの販売をこなすため、

「あわてず基本に忠実に作業すること」

「笑顔と挨拶を忘れないこと」

「不明な点は勝手に判断しないこと」

これらの心構えが必要になります。



たくさんのご訪問、ありがとうございました

11月には多くの団体の方々にお越しいただきました。誠にありがとうございました。お越しいただきました生徒さんには、実際の訓練に加わっていただきました。企業から請け負った仕事を行うということで、「ていねいに」・「あわてずに」・「きれいに」作業することを目標に取り組んでいただきました。初めて取り組む作業だったためこずりながらも、あきらめずに励んでいました。

ご来所いただいた際に、当事業所の林社長が講和させていただきました。生徒さん向けの講和では、就労に向けての心構えや今やっておかなければならない事、保護者様向けには、障がい者の基礎年金や企業が求めている障がい者像と課題の問題を話させていただきました。



【ご来所ありがとうございました】
12日～富士宮市社会福祉協議会 福祉施設関係者など 20名以上
13日～富士市立岳陽中学校特別支援学級 先生・生徒・父兄 計26名
18日～NPO法人 富士市手をつなぐ育成会 父兄 14名
27日～富士市立須津中学校特別支援学級 先生・生徒 計11名

芸術祭・十六市出店報告

11月14日・15日とグランシップ静岡で行われました、「全国障害者芸術文化祭」に出店しイカ焼きを販売しました。

初日は雨ということもあり、人出はあまりなかったのですが、その場で焼いているところをみて、買ってくださるお客様もいらっしゃいました。2日目は天気もよく、多くの方が来場してくださいました。1日目の失敗を活かし、利用者自身で考えて販売をしました。

【十六市の様子】



16日には富士宮駅前行なわれている「十六市」に参加しました。

商いの基本である「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」が、笑顔で元気よく出来ていたと感じました。

今後も、機会があれば色々なところに出店していきたいと思っておりますので、情報をいただきたいと思っております。よろしくお願いたします。



～ビレッジ4コマ劇場～

作者：Smine
ビレッジの利用者の日常の一コマを利用者が描きました



おすすめ情報 ギャラリー様さま



「木偏」に「楽しい」で「様(くぬぎ)」。富士宮市の浅間神社から続く商店街にある委託商品のセレクトショップ兼ギャラリーです。いつもビレッジのお弁当をお届けしながら、見せていただいています。陶器や布小物などかわいい雑貨がたくさん！こじんまりとしてきれいなお店です。ギャラリーオーナーはとってもアットホームな方で、いつもニコニコ。

5×緑どんぐりキューブ@富士宮プロジェクト～その1～

農園芸班の新事業、「どんぐりキューブ@富士宮プロジェクト」がスタートしています。

「どんぐりキューブ」って？聞きなれない言葉かもしれませんが、約10センチ角の立方体の鉢の中に、実生から育てた3年生の苗が3本株立風に植えてあるものです(写真1参照)。

これは、東京都渋谷区恵比寿にある、株式会社アネックス5×緑(ごばいみどり)事業部と、千代田区九段南にある、株式会社富士植木及び八王子市に拠点を置くNPO法人緑の大地会、富士宮市の田貫湖にある日本大学生物資源科学部 富士自然教育センターとのコラボレーションでスタートした事業です。

今年の9月初旬、富士自然教育センターで行われた実習で、日大学生さんが、「どんぐりキューブ」を作成しました。その際に、富士山ドリームビレッジから、どんぐりキューブに使用する立方体の器を納品しました。写真1のような器ですが、ひとつひとつ、利用者の手作りです。金網を台紙に沿って定形に切り、印の付いている所を折り曲げて、立方体にしていきます。形ができたなら、定形に切った不織布をキューブの中に入れて込みます。金網や不織布をしるしどおりに切ることや不織布を丁寧に器に入れ込んでいく作業は、手先の器用さを必要とします。約2日半で50個の器を二人で完成することができました。

「どんぐりキューブ@富士宮プロジェクト」は、『里山を元気にする!』をコンセプトに『自然・教育・福祉』がそれぞれの立場から一緒にできることを模索しながら始まったものです(図1参照)。私たち福祉の立場から、自然環境を考え、「里山再生」のお手伝いができたら思い、参画しています。その中で、利用者の職業訓練や請負作業となる器作りや苗木作りも行っています。また、日大の実習の際には、お昼のお弁当を注文いただき、調理&配達させていただきました。学生さんからは、「おいしかった」とうれしいお言葉もいただいております。利用者や職員のモチベーションも上がりました。日大の皆さまありがとうございました。

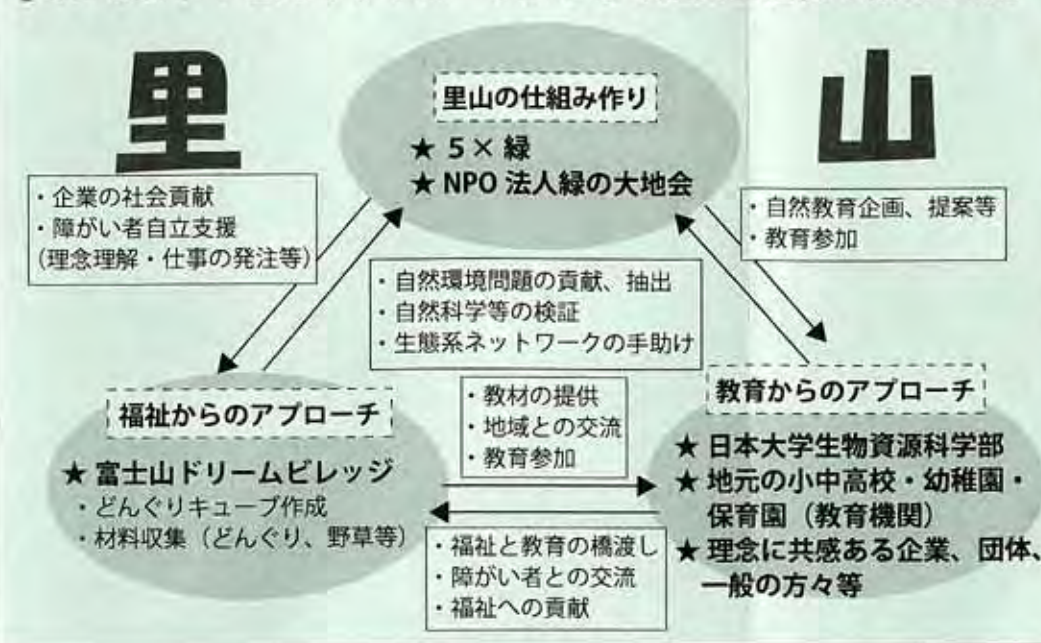
今後も、「どんぐりキューブ@富士宮プロジェクト」は、どんどん進化していきます。その都度、ニュースレターやホームページ等でお知らせしていきます。また、「どんぐりキューブ」を購入希望や企業のCSR、学校・施設等の実習などで使いたいという方がいらっしゃいましたら、ぜひお問い合わせくださいませ。

次号は、『「どんぐりキューブ」のコンセプトについて&今後のイベントについて』です。お楽しみに。

(写真1: シラカシ キューブ)



【コンセプト：どんぐりキューブがつなぐ里山&福祉&教育の環】



- 株式会社アネックス5×緑&どんぐりキューブ: <http://www.5baimidori.com/satoyama/donguri.html>
- 株式会社富士植木: <http://www.fujiueki.co.jp/> □ NPO 法人緑の大地会: <http://daichikai.sakura.ne.jp/>
- 日本大学生物資源科学部富士自然教育センター: <http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~kyoumuka1/index.html>
- 問い合わせ: 富士山ドリームビレッジ ● 担当: 田代 ● TEL: 0544-25-1808 ● email: tashiro@the-people.net



第五回「富士山エコフォーラム」を実施して

～障がい者雇用の本音！なぜ障がい者雇用は美談で終わるのか？～

このフォーラムでは、障がい者雇用のことを目的に、発案・計画しました。

昨今、企業のコンプライアンス(法律遵守) CSR(社会貢献)の気運の上昇と同じくして、障がい者雇用に真剣に考え始める企業が増えてきました。

しかし障がい者雇用には、表面にはなかなか出てこない数々の問題点があります。

今回のテーマの副題でもある「障がい者雇用の本音！なぜ障がい者雇用は美談で終わるのか？」には、通常では語られない障がい者雇用の失敗を表に出し、そこから問題点を見出そうというコンセプトの元に始まりました。

確かに、いろいろな障がい者の関係者に何うと雇用が「ゴール」と考えている方が多くいるように感じます。しかし雇用する側の企業からすれば、それは「スタート」だと考えています。このような意識のギャップにも、雇用問題が生じる一因があるのではないのでしょうか。

今回は障がい者にスポットを当て、障がい者側からの視点ではなく、雇用する側の企業からの視点で、障がい者雇用を問うフォーラムになりました。

発表していただいた株式会社エンチャーの貫名部長、パネラーの方々、また参加していただいた企業や障がい者の事業

所、学校の方々、多くの方々に障がい者雇用について真剣に議論していただきました。その白熱ぶりは、主催の私たちも圧倒される勢いでした。答えを導き出すというフォーラムではありませんでしたが、多くの方々に障がい者雇用を今までとは違った観点で考えていただく機会になったと思います。

最後にご参加いただいた多くの皆様、まことにありがとうございました。

【パネルディスカッション】



【体験発表】



【情報交流会の様子】

